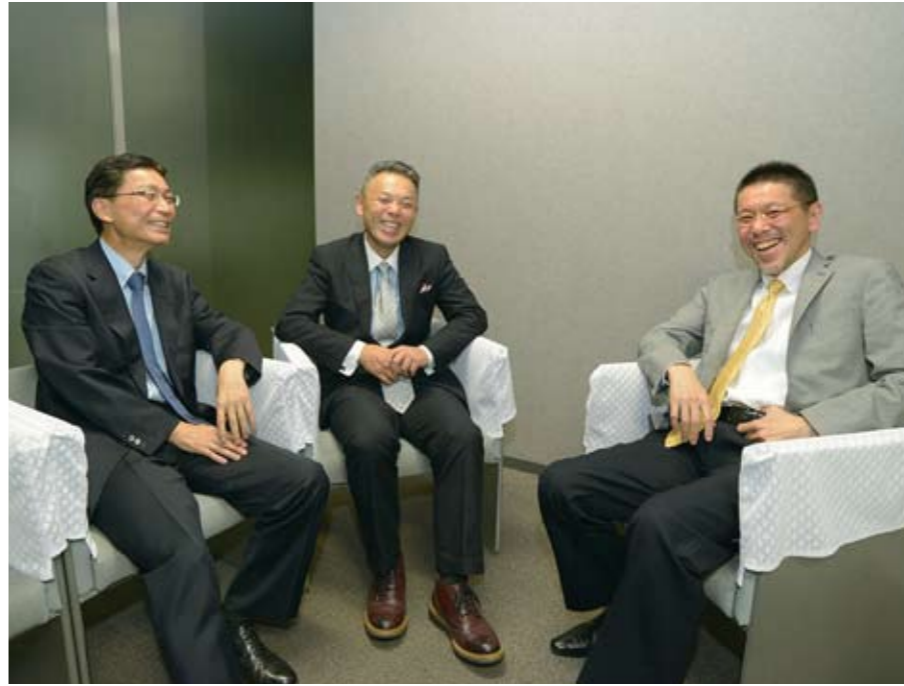


# 医療における胎動を探る②

## セコム医療システム株式会社

### 多彩な情報を先取りし、細やかなサポートが実現する魅力あふれるフィールド



最大の財産“生命”を守るため、医療の分野で質の高いサービスの提供を追求しているセコムグループ。その事業の核を担うセコム医療システムは、現在医療機関19施設と提携し、多彩な取り組みを展開している。今回はその中の3つの施設の副院長、山上岩男氏、今西剛史氏、石井康宏氏に集まっていただき、セコム提携病院のグループとしての現状と今後について語ってもらった。

### 研修体制もグローバルに。刺激あふれる環境を実現

セコムの提携病院であることで、メリットと思われることはなんですか？

山上「現在、自分が所属する病院を中心として、医師の様々な研修プログラムの作成に取り組んでいます。その際にセコムの提携病院として、グローバルな視点も採り入れていくことが可能となっています。たとえば私自身、米国クリブブランド・クリニックにおける2週間の「サムスングローバルリーダーシップアカデミー」に参加しました。世界の病院から医師が集まり、非常に中身の濃いディスカッション形式の研修で、グローバルなネットワークを有したセコムグループならではの経験を積めたと思っています。そうした経験を若手医師にもどんどん積んで欲しい。さらにどんな研修を受けたいか、若手医師も巻き込んで魅力ある研修システムを構築し、共有していきたいと考えています」

今西「グループレベルでの研修ということで言えば、ドクターのみならず、メディカルスタッフについても各専門領域ごとに行われています。当院が担当回復期のリハビリテーションは、おかげさまで大変優秀な看護師やS T、P T、O Tに支えられています。



医療法人社団 誠馨会 千葉中央メディカルセンター 副院長 脳神経外科部長 山上岩男氏。現在は誠馨会グループの4つの病院でグローバルな視点を持った研修制度を総括している。

その彼らが、自らをより高いレベルに引き上げられる環境があるということとは、大きなモチベーションになりますし、それによつて離職率が減少し、医療機関としてのクオリティも向上していくと思いますね」

石井「確かに近年「チーム医療」ということが重要になってきていますから、彼らがいきいき働ける環境をつくることは大切です。感染症などの安全性の管理や栄養サポートなど、チームとして患者さんに対応していくことが多岐にわたり、医師にチームリーダーとしての力量がより求められています。セコムグループでは、様々な研修部会の中に、私たち副院長クラスのリーダー研修もあり、普段学べないことも学べます。こうした機会は病院単体で持つことはなかなか難しいので、大変ありがたいですね」

山上「セコムグループでは全体での研

究発表会もあります。医師、メディカルスタッフすべてが対象で、各病院で代表を選び、ブロック大会、全国大会へと進んでいきます。全国大会は北海道で開催されるのですが、「北海道へ行く」を合い言葉にみんな頑張っています。最後の表彰式はけっこう盛り上がるんですよ(笑)」



医療法人社団 三喜会 鶴巻温泉病院 副院長 湘南リハビリテーションセンター長 今西剛史氏。専門は整形外科。現在は回復期リハビリテーションに関し、地域を包括した新しい試みに挑戦。

機能施設』の設置を進めています。認知症の方が風邪などちょっとした病気になったときに受け入れられる施設です。介護者のお子さんその間、預けられる制度もあります。私たちは「超多機能」と呼ぶこともあるんです。もともとセコムは調剤薬局をもっていたり、療養型マンションを運営していたり、在宅を前提とした訪問看護などの取り組みを民間としていち早く行っています。そのあたりのツールやノウハウを大いに活用して、もっと地域社会の求めに応えられる医療機関を目指したいですね」

石井「今後、地域医療に関してはしっかりと考えていかなければならないと思います。私が勤める荻窪病院のある杉並区、また中野区、練馬区といったエリアは、実は大きな医療施設が多くな、急性期を脱した患者さんをどこで受け入れていくか、問題となることがあります。私自身もともと循環器系が専門なのですが、現在、その患者さんのうち約8割が高齢者でもあります。ですから今は『後方支援』にも力を入れています。高度な医療を提供すると同時に、安心して生活していくための地域のネットワークの中心的存在にならなければ、と考えています」

山上「セコムは社会の動きに対して非常に敏感な企業であると思います。そのおかげで、セコムの提携病院に



医療法人財団 荻窪病院 副院長 循環器内科部長 石井康宏氏。専門は心臓病のカテーテルによる診断・治療。専門以外にも地域医療に対して後方支援的な取り組みを精力的に行っている。

関しては、スピーディーに情報の先取りができています。副院長会や事務長会など、様々な機会を通じて、また、さきほどの研究発表会などの場において、細やかに情報が伝えられます。決して強いがパナンスがあるわけではなく、様々なサポートが得られる、という形です。今は医療も社会活動の一環として考えていかなければいけませんから、こうした仕組みは貴重だと感じています。こうした環境を利用して、若手の医師が魅力を感じて集まってくるグループにしたいですね。「あそこに行けば何か新しいこと、面白いことができるぞ」とか「自分をもっと向上させられるぞ」と人材が集まってくる」

石井「セコムの提携医療機関にきて実感したのですが、セコムは非常に人を大切に、夢を与えてくれる企



それぞれの病院の取り組みについても興味深く耳を傾ける3氏。グループ病院同士の垣根のない風土がうかがえる。

### セコム医療システム株式会社



主な業務  
訪問介護、有料老人ホーム、電子カルテ事業や遠隔画像診断支援、訪問看護、病院運営支援など。

〒150-0001  
東京都渋谷区神宮前  
1-5-1 セコム本社ビル14階  
担当: 金丸 太一 小泉 忠夫  
TEL 03-5775-8031  
✉ tada-koizumi@secom.co.jp